

地域の医療連携の中核を担う

りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)

医療安全管理室

診療局次長兼がん治療センター長兼外科主任部長兼医療安全管理室長

位藤俊一

医療安全を確保することは、質のよい医療サービスを提供する上での最重要課題といえます。当院でも医療安全管理室を中心に医療



事故を起こさないための方策を検討し、組織横断的にチーム連携を強化し、医療安全に関する意識の向上に結び付けています。

医療事故を未然に防止するための方策としては、「インフォームド・コンセント」を確実に実施するよう周知徹底することにも「ヒヤリ・ハット報告」による情報収集を行っています。また医療事故が起きた場合には「事故発生時の報告体制」を核としたリスクマネジメントをはじめ、非常に幅広い業務を担っています。法的にも医療安全を確保するための措置として、医療安全管理のための指針を整備することや医療安全管理のための職員研修などが義務付けられています。

今年度から地域における病院間の相互評価「医療安全地域連携」が開始され、泉州地域における病院の中でも中核となる機能を求められており、他の医療機関とともに、地域一帯の医療安全に対する医療者の意識向上をサポート出来るよう取り組んでいます。

今後とも院内の体制整備を行い医療現場に安全文化を根づかせていくことにより、患者さんや利用者に安全かつ安心な医療提供ができるよう、取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

りんくうウエルネスケア研究センター

りんくうウエルネスケア研究センター長兼健康管理センター副センター長兼循環器内科部長

増田大作

昨年4月より「りんくうウエルネスケア研究センター」が新たに開設いたしました。当センターはどれかの科の診療を行うのではなく、当院における問題点に対して研究マインドをもって事業を進め、その結果として泉州地域のヘルスケアの向上に奉仕します。以下の3つの事業を念頭に行なっています。



「生涯リスクを知り健康を維持するウエルネス」ヒトは健康かつ安心な状態（ウエルネス）を長く続けたいですが今の健康診断では未来予測はできません。既知の医学情報をもとに健康診断結果から生涯リスクを予測するシステム構築を目指し、発病前からの生活習慣改善により泉州地域さらに我が国のウエルネス向上を目指します。

「多職種かつ施設間で連携して疾患と闘うケア」現状では医療機関の間で情報提供がスムーズではなく、病院中で働く多くの職種の連携にも工夫が必要です。患者さん・医療者・医療機関の連携をスムーズにする手法について検討します。

「地域の活性化や医療者の活躍のための働き方アクティビティ」手間のかかる作業や長時間労働が医療者本来の仕事を防げており、さらに地域の人口減や働き手の減少も大きな問題です。医療者が地域にいかに貢献できるか、いかに医療者や地域の活力（アクティビティ）を向上させられるかについて検討します。

医療関係の人、あるいは地域事業を進めておられる人、当センターの概念に賛同いただける人のご連絡をお待ちしています。